

自立の意志なく 追従露骨に

朝日新聞 11月25日朝刊・オピニオン&フォーラムは「保護者なき日本」をテーマに、社会学者の宮台真司さん「自明の対米従属 愚に気付く」、政治学者の白井聡さんが表題のように発言している。白井さんは若き気鋭の政治学者らしく、やはり鋭い指摘が多い。抜粋して紹介したい。

トランプ氏が米大統領選で当選すると、安倍晋三首相は飛んでいきました。「夢を語り合う会談をしたい」と言っ。夢みtainなことを言うなよと思ひましたね。

安倍さんは選挙戦中クリントン氏には会った一方で、トランプ氏をスキップしてしまつた。それを挽回したかつたのでしよう。飼い主を見誤つた犬が、一生懸命に尻尾を振つて駆けつけた。失礼ながら、そんなふうに見えました。恥づかしい。惨めです。それを指摘しないメディアもおかしい。

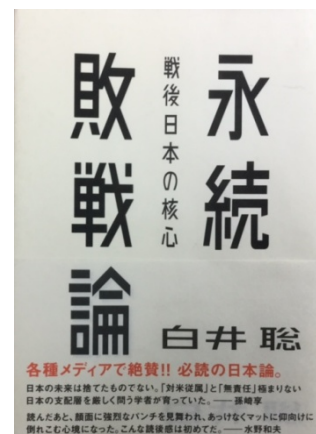
米国が孤立主義に振れば、日本は対米従属から対米自立へと向かわざるを得なくなる。私も早く自立してほしいと思ひます。ではすぐにそつちへ向かうかと言へば、官邸や外務省にはそのビジョンも意志もないでしよう。だって、見捨てないでくださいご主人様、とやつたばかりですよ。

大統領選中の報道や論議もおかしかつた。トランプになつたら、ヒラリーだつたら、日本への影響はどうこうだ、と。これは変でしよう。自分たちはこうしたい、というのが一切なくて、米国はどうなるかという読み解きばかり。異様です。何も考えずに米国にくつついてさえいれればいいと思つている証拠でしようね。

ひたすら対米追従するといふ日本側の本質は何ら変わつていないのだから、米国の国益追求がむき出しになる分だけ、今後、従属の露骨さはむしろ強まると思ひます。

90年前後に冷戦が終わり、敗戦によって生まれた対米従属を続ける必要はなくなつたのに、保守政権はその後もそれをやめようとしなひ。だから私はこれを「永続敗戦」だと名づけました。この構図がなお続く可能性は高い。

保護者なき日本はどこへいくか、ですか。そもそも日本にとって保護者は存在したのでしようか。これは国と国との関係です。親分と子分の関係だつて、互いに都合がいいから。利害が変われれば関係も変わる。もし「愛してくれているから同盟関係にある」などと信じているとしたら、そんなおめでたい国は日本だけでしよう。



(2016年12月4日)